

# 栃木県結核・感染症発生動向調査情報

(サーベイランス)

令和 2(2020)年8月(週報第 32 週～第 35 週(8/3～8/30))集計の感染症発生動向調査情報に関する解析結果は次のとおりです。

1 感染症解析情報 {8 月は 4 週間、7 月は 5 週間、前年同期は 4 週間での比較となります。}

## (1)概況

ア. 8月の報告数は次のとおりです。全数(1～5類)把握疾病は、164件(7月は196件)でした。定点把握疾病のうち週報疾病(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、基幹定点の週報)は364件(定点あたり2.09件/週)であり、7月の614件(定点あたり2.79件/週)と比較し、週あたり0.75倍とやや低い水準で推移しています。

イ. 栃木県において報告が多かった主な疾病は次のとおりです。(定点把握週報疾病)

疾病名	報告数	前月との比較(週あたり比)	前年同期との比較(週あたり比)
感染性胃腸炎	123件 (週あたり平均30.75件)	↓ (0.62倍) 前月は249件 (週あたり平均49.80件)	↓ (0.68倍) *前年同月181件 (週あたり平均45.25件)
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	50件 (週あたり平均12.50件)	↓ (0.68倍) 前月は92件 (週あたり平均18.40件)	↓ (0.47倍) *前年同月106件 (週あたり平均26.50件)

- ① 感染性胃腸炎は、前月に比べ報告数が0.62倍とかなり低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で0.68倍とかなり低い水準で推移しています。全国的には、過去5年間の同時期と比較して、大幅に低い水準で推移しています。
- ② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、前月に比べ報告数が0.68倍とかなり低い水準で推移しています。前年同期に比べると、報告数で0.47倍と大幅に低い水準で推移しています。全国的には、過去5年間の同時期と比較して、大幅に低い水準で推移しています。

## (2)全数(1～5類)把握疾病情報(全国)

ア. 1類、2類、3類疾病及び指定感染症

結核 1,203件(7月 1,628件)、細菌性赤痢2件(7月2件)、腸管出血性大腸菌感染症 403件(7月 516件)、新型コロナウイルス感染症 28,716件(7月 18,213件)の報告がありました。他の疾病の報告はありませんでした。

イ. 4類・5類(上位6疾病)

順位	疾患名	件数	前月件数
1	梅毒	313	547
2	レジオネラ症	201	395
3	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	173	178
4	後天性免疫不全症候群	61	114
5	侵襲性肺炎球菌感染症	59	97
6	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	54	60

ウ. 栃木県では次の報告がありました。(計164件)

結核 25件、新型コロナウイルス感染症 104件、腸管出血性大腸菌感染症 12件、レジオネラ症 12件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件、後天性免疫不全症候群 1件、侵襲性肺炎球菌感染症2件、梅毒5件

※本解析評価は、速報性を重視しておりますので、今後の調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがあります。

## 2 疾病の予防解説

結核の解説です。

結核は、感染症法に基づく二類感染症全数把握疾病です。

昭和 25 年まで、死亡原因の 1 位となるほどまん延していた結核は、医療の進歩や生活水準の向上により急速に減少しましたが、昭和 50 年代半ばから減少が鈍化し始め、令和元(2019)年の新登録結核患者数は、全国で 14,460 人(罹患率\*11.5)、本県では 188 人(罹患率\*9.7)と現在でも多くの報告があります。

結核は、過去の病気ではなく、現在でも治療が遅れれば重症化し、時に命を落とすことがある病気です。2 週間以上咳が続くときは、早めに医療機関を受診しましょう。

毎年 9 月 24 日～30 日は、結核予防週間です。結核に対する理解を深め、予防及び早期発見に努めましょう。

\*罹患率は、人口 10 万対率で表したものです。(全国は、人口推計(R1.10.1)による人口を用いた。また、栃木県は、栃木県毎月人口調査(R1.10.1)による人口を用いた。)

疾病名	結核
症状や特徴	<p>結核は、「結核菌」という細菌が、体の中に入ることによって起こる病気です。結核を発病し重症化した人が、咳やくしゃみをしたとき、飛び散る飛沫(しぶき)と一緒にこの菌が空気中に放出され、その菌を吸いこむことによって感染します。結核菌を吸い込んで、体の免疫機能が体内に結核菌を閉じこめて活動させない状態を「感染」といい、免疫力・抵抗力が低下すると、結核菌が活動を始め、咳や痰、胸痛、呼吸困難などの症状が現れることがあります。これを「発病」といいます。</p> <p>発病した患者の約 80%は肺結核ですが、結核菌が血流によって全身に運ばれ、骨関節や腎臓などの臓器に病変を引き起こすことがあります。特に乳幼児では、粟粒結核や結核性髄膜炎など重篤な結核になりやすいのが特徴です。</p> <p>激しい咳が長時間続いている患者が、痰から多くの菌を排出している場合や、免疫のない人と数多く接触している場合ほど、周囲への感染の危険性が高まります。</p>
予防対策など	<p>BCG 接種は、発病しないように免疫をつけるもので、生後 1 歳に至るまでの間が定期予防接種の接種期間となっており、乳幼児の粟粒結核や結核性髄膜炎など重篤な結核に対して、最も発病予防効果が期待できます。BCG 接種で身についた免疫力は、10～15 年の効果があると言われていいます。</p> <p>結核は誰でもかかる可能性がありますので、定期的に健康診断を受けましょう。結核の初期症状は、風邪とよく似ています。咳や痰が 2 週間以上続いたら、結核を疑って早めに医療機関を受診しましょう。早期発見することで、周りの人にうつす恐れも低くなります。</p> <p>治療は、6～9 ヶ月の間、複数の抗結核薬を組み合わせる服用します。症状がなくなっても、自己判断で服薬をやめると、薬に抵抗性を持った菌(耐性菌)が出現して治療が難しくなります。耐性菌の出現を防ぐためにも、医師の指示に従い服薬を継続することが大切です。</p>

(参考) 国立感染症研究所 ホームページ <https://www.niid.go.jp/niid/ja/>

厚生労働省 ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/>

公益社団法人結核予防会 結核研究所 ホームページ <http://www.jata.or.jp/>

※予防解説は一般的なことを記載していますので、不明な点は主治医によく相談するようにしましょう。

## 3 その他の参考事項

国立感染症研究所の感染症発生動向警報システムにより、8月に県内で発生した警報および注意報はありませんでした。